

# 15 消防防災ヘリの安全性向上について

【消防庁】

## 長野県の状況

### ●何よりも安全を最優先にした「更なる安全対策」の実施

- ・二度と事故を起こすまいという決意のもと、県「消防防災航空体制のあり方検討会」で検討された安全対策を着実に進める必要がある
- ・国「消防防災ヘリコプターの安全性向上・充実強化に関する検討会」報告書等の提言に基づき、取組を早期に実施する必要がある

#### 取組

- 「消防防災航空体制のあり方検討会」（H29.6～9）を開催し、「更なる安全対策」をとりまとめ
- 安全運航に関する組織マネジメントの強化
  - ・第三者評価を実施し、PDCAサイクルによる継続的に改善する仕組みづくり（H31.3.8実施）
  - ・安全運航会議を実施し、隊員への安全教育や適切な指導の場を設定（H30.1～）
  - ・指揮命令系統における役割分担を明確化し、各種規程に明記（H30.5.7）
- チーム力強化のためのCRM（クルー・リソース・マネジメント）研修の実施
  - ・毎月、安全運航会議を開催し、CRMの普及に努めている（H30.1～）
- ダブルパイロット制の導入
  - ・機長のヒューマンエラーによるリスクを最小化するため、操縦士2人体制を実施（H30.3.7～）
- シミュレーターを活用した緊急事態の対処訓練の実施
  - ・突然の気象変化や突発的な事態に対応するため、フライト・シミュレーターを活用した訓練を実施（H30.12～）



シミュレーター訓練の様子

## 課題

- **運航責任者（消防防災航空センター所長）は、航空法をはじめとする専門的な法規や知識が必要となるが、それらを一貫して学ぶ機会がない**

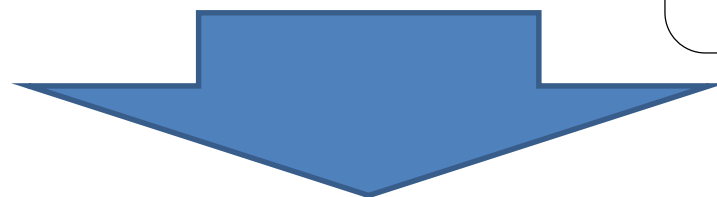
新任の消防学校長には、消防大学校における訓練課程が設けられている

- 国の報告書では「**CRMの効果を最大限生かすためには、搭乗する者全てがその概念を統一的に認識する必要がある**ほか、CRMは日々進歩していることから**継続的な研修が必要**」とされているが、消防防災航空隊の隊員を対象にしたCRM研修の機会は極めて少ない

- **シミュレーターによる緊急時の操作訓練は非常に有効であるが、国内におけるシミュレーターの配置数が少なく、希望どおりに訓練を実施できない**

また、本県が使用する機体に合致するシミュレーターが国内にない

・シミュレーターは国内に3台しかなく、そのうち誰もが使用できるものは、羽田にある民間事業者が所有する1台のみ  
・1時間あたり4万円の研修費用が必要  
(1単位あたり2時間の研修)



## 提案・要望

### 1 新任の運航責任者を対象とした研修の実施

消防大学校などにおいて、新任の運航責任者を対象とした研修機会を確保すること

### 2 消防防災航空隊の隊員を対象としたCRM研修の実施

外部の専門家等を活用したCRM研修を、国が主体的に実施すること

### 3 国によるフライトシミュレーターの整備と訓練実施体制の整備

国が、消防大学校などにフライトシミュレーターを整備するとともに、訓練指導員を配置し、訓練機会を確保すること